

## 令和元年度 奥田元宋・小由女美術館事業報告

三次市の芸術・文化・教育の振興，並びに地域文化の発展を図ることをめざし，次の事業を行った。

### 【公益目的事業】

#### 1 展示事業

##### (1) 常設展の開催

常設展は，所蔵作品，寄託作品を活用し，年4回の展示替えを行い，常設展示の充実を図った。

また，学芸員によるギャラリートークは，満月夜間開館日に合わせ午後3時から常設展示室内で実施した。(計10回 参加者総数54人)

	展示名	会期 (開館日数)	入館者数 (常設展のみ)
1	第1期常設展 「奥田元宋と奥田小由女の世界」	常設展のみの期間 4月8日～4月14日 (6日間)	353人
		※展示期間 4月8日～6月11日 (70日間)	
1	<b>【概要】</b> 奥田元宋作品では近年，新たに収蔵となった作品を多くご紹介しながら，新緑の季節を感じられる作品などを中心に展示。近年の収蔵作品である《翠巒》《浅春の月》に加え，初展示となる《待月》や初期の貴重な作例と思われる軸装の作品を多数紹介した。 奥田小由女作品については，植物の芽吹く季節にあわせ，植物モチーフが印象的な作品を紹介するとともに，子どもが加わった作例もピックアップして展示した。総点数43点。		
2	第2期常設展 「奥田元宋と奥田小由女の世界」	常設展のみの期間 6月13日～7月4日 9月7日～9月10日 (26日間)	1,316人
		※展示期間 6月13日～9月10日	

		(88日間)	
	<p><b>【概要】</b></p> <p>会期が6月から9月までの「夏」の期間であることから、奥田元宋の日本画、奥田小由女の人形ともに、青や緑を基調とした清々しい色彩の作品を多く選定。また、書や短歌も得意とした元宋の幅広い作例を交えながら、昨年度に寄贈を受けた新収蔵の奥田元宋作品の中から多数を展示し、当館での「初公開」とした。奥田小由女作品については「白の時代」の初期作から近作まで、多彩なアプローチによる親しみやすい造形の紹介に努めた。総点数 51 点。</p>		
3	<p>第3期常設展</p> <p>「奥田元宋と奥田小由女の世界」</p>	<p>常設展のみの期間</p> <p>11月5日～11月8日</p> <p>(4日間)</p> <p>※展示期間</p> <p>9月12日～12月10日</p> <p>(88日間)</p>	191人
	<p><b>【概要】</b></p> <p>会期中は秋にあたるため、奥田元宋作品は秋をテーマにした作品や『元宋の赤』の世界観の作品を中心に展示。また水際や水流を描いた作品も多く展示し、それに合わせて奥田小由女作品も水や風の流れの表現が感じられる作品を中心に展示。「平面と立体の共鳴」という美術館のコンセプトに基づいたテーマの展示構成を目指した。総点数 43 点。</p>		
4	<p>第4期常設展</p> <p>「奥田元宋と奥田小由女の世界」</p>	<p>常設展のみの期間</p> <p>令和2年1月20日～</p> <p>1月24日</p> <p>令和2年2月20日～</p> <p>2月21日</p> <p>(7日間)</p> <p>※展示期間</p> <p>12月12日～</p> <p>令和2年3月10日</p> <p>(50日間)</p> <p>(うち、1月25日～2月19日は常設展示室リニューアル工事のため閉鎖)</p>	99人
	<p><b>【概要】</b></p>		

	<p>奥田元宋作品では、晩秋から冬、そして春へと移り行く季節にあわせた作品を紹介。</p> <p>奥田小由女作品についても、赤と白をテーマにピックアップした作品を展示し、対照的な展示空間を演出した。総点数 42 点。</p> <p><b>【常設展示室リニューアル工事】</b></p> <p>令和 2 年 1 月 25 日～2 月 19 日まで、小由女展示室（1・2）及び休憩室のリニューアル工事を行った（市実施）。小由女展示室 1 は、展示室壁面の全面塗替え、展示ケースの全面更新、既存展示台への前面ガラス引き戸の設置等を行い、小由女展示室 2 は、壁面ガラスケースの設置及び壁面クロスの更新等を行った。併せて、休憩室に元宋コーナーを設置し、小由女氏から寄贈を受けた元宋氏が生前使用していた画材約 200 点を展示し、当時のアトリエの雰囲気を再現した。</p>	
	入館者数合計（常設展示のみ 43 日間）	1,765 人

## （2）企画展の開催

年間 6 回の企画展を実施した。

	企画展名	会期（開館日数）	入館者数
	吉村芳生展 超絶技巧を超えて	4 月 1 日～4 月 7 日 (7 日間) ※全会期 2 月 22 日～4 月 7 日 (44 日間)	1,604 人   ※全期間入館者数 8,395 人
1	<p><b>【概要】</b></p> <p>途方もない時間と気の遠くなるような作業の集積によって、「超絶技巧」を超えた独自の作品を描き出した画家、吉村芳生の画業を通覧する回顧展として開催。初期のモノクロームによる作品群や、代表的なシリーズとなる「新聞と自画像」の一連の作品、色鉛筆によって克明に描きこまれたコスモス畑やフジの花など、代表作を含むおよそ 480 点の作品群を一挙に展示し、ボリュームのある内容となった。</p> <p>※主催：奥田元宋・小由女美術館，中国放送，中国新聞社</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>会期中，学芸員によるギャラリートークを 2 月 24 日，3 月 1 日，3 月 31 日に実施し，延べ約 90 人の参加を得た。</p>		
2	ジョルジュ・ルオー展	4 月 15 日～6 月 9 日	6,946 人

	パナソニック汐留ミュージアムコレクション	(55日間)	
	<p><b>【概要】</b></p> <p>20世紀を代表する宗教画家とも言われるジョルジュ・ルオーの全貌を、パナソニック汐留美術館の一大コレクションによって紹介(計103点)。敬虔なキリスト教徒だったルオーは、「キリスト像」や「受難」などの宗教画題を数多く描くとともに、同時代の社会や人間と真摯に向き合い、静謐さをたたえた独創的な画面に昇華させた。それらの魅力的な作品の数々を、4つの章によって展示構成し、公開した。</p> <p>※主催：主催：奥田元宋・小由女美術館，中国新聞社，中国放送</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>作品所蔵先であるパナソニック汐留美術館の宮内真理子学芸員によるスペシャルトークを実施し、ルオーの人と芸術に関する理解の一助とした(5月12日午後1時～約1時間 60名の参加)。また、4月18日、5月5日、5月26日に学芸員によるギャラリートークを実施(各回とも午後1時～約1時間 合計120人の参加)。</p>		
	宮西達也 New ワンダーランド展	7月5日～9月6日 (62日間)	11,417人
3	<p><b>【概要】</b></p> <p>絵本作家・宮西達也のデビュー35周年を記念した展覧会。代表作の「ティラノサウルスシリーズ」「おとうさんはウルトラマンシリーズ」など、初期から近年までの絵本原画に加え、秘蔵のスケッチや資料など、およそ180点を展示公開した。三次商工会議所・みよし風土記の丘ミュージアムと連携したジョイント事業としての開催。8月15日は台風接近に伴い臨時休館とした。</p> <p>※主催：奥田元宋・小由女美術館，中国放送，中国新聞社</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>会期中の7月5～7日、8月10～12日は宮西達也氏本人によるギャラリートーク・絵本読み聞かせ・ライブペイント・サイン会などを実施、延べ約1,100人が参加した。その他、学芸員のギャラリートークを7月12日、7月28日、8月18日に実施し、延べ約30人が参加。また『ティラノサウルスがやってくる!』と称して、宮西作品の人気キャラクターであるティラノサウルスと『にゃーご』たまとの記念撮影会を7月14・15日に実施し、延べ47組が参加した。</p>		
4	ヒグチユウコ CIRC US展	9月12日～11月4日 (53日間)	20,035人

	<p><b>【概要】</b></p> <p>空想と現実を行き交う自由な発想とタッチで、幅広い活躍をみせる画家・ヒグチユウコ。自身初となる大規模個展として、約 20 年の画業の中で描かれた 500 点を超える作品を公開した。不思議な動物や植物たち、この世には存在しないような生き物たちが繰り広げる、楽しくもどこか切ないサーカス (CIRCUS) の世界を大規模な会場構成によって演出した。</p> <p>※主催：奥田元宋・小由女美術館，朝日新聞社，中国新聞社，中国放送</p>		
	<p>イラストレーター 安西水丸展</p>	<p>11月9日～ 令和2年1月19日 (65日間)</p>	<p>6,838人</p>
5	<p><b>【概要】</b></p> <p>1970年代より小説，漫画，絵本，エッセイや広告など多方面で活躍したイラストレーター・安西水丸の全貌を，多彩な作品の数々や愛用の品，各種資料など約 500 点によって紹介。身近なものを独自の感性で表現し，ユーモアと哀愁あふれる世界を構築した安西水丸の魅力を，4 つの章によって展示構成し，公開した。</p> <p>※主催：奥田元宋・小由女美術館，中国放送，中国新聞社</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>安西水丸の長女でエッセイストである安西カオリ氏を招き，スペシャルトークを行なった（11月9日 午後1時～50人の参加）。また，11月14日，12月1日，令和2年1月5日に学芸員によるギャラリートークを実施（各回とも午後1時～約1時間 合計 120人の参加）。</p>		
	<p>キスリング展</p>	<p>令和2年2月22日～ 3月31日 (34日間)</p>	<p>2,492人</p>
6	<p><b>【概要】</b></p> <p>19世紀初頭のフランスで活躍し，エコール・ド・パリを代表する画家・キスリングの初期から晩年の油彩画・水彩画など 59 点を展示公開した。女性像を中心に静物画・風景画などの代表作をまとめて紹介することでキスリングの画業を見渡すことができる機会となった。</p> <p>※主催：奥田元宋・小由女美術館，中国放送，中国新聞社</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため，予定していた会期内の講演会・ギャラリートーク・満月ロビーコンサート等をすべて中止とした。</p>		

合計入館者数（276日間）	49,332人
※常設展のみ（43日間）1,765人	企画展（276日間）49,332人
合計 319日間 51,097人	

## 2 調査研究，収集保管事業

### （1）調査研究

奥田元宋の習作・スケッチ類の分類整理作業を継続して実施した。

### （2）作品収集

常設展示室のリニューアル工事に合わせ，休憩室に元宋コーナーを設置し，元宋氏が生前使用していた岩絵具，絵筆，絵皿，硯，文鎮，水滴，朱肉など約200点余りを奥田小由女先生から寄贈を受け，展示した。

また，作品収集については引き続き関連作品の購入・受託受入の調整を行う。

## 3 市民活動支援及び教育普及事業

本年度も市民ギャラリー等活用事業，ロビーコンサート事業，学校連携事業等を実施したが，令和2年3月は「新型コロナウイルス感染症三次市特別警戒本部」の方針及び要請に基づき，感染拡大防止対策のため，全てのイベント及び会場貸出等を中止した。

### （1）市民ギャラリー等活用事業

各文化団体，美術館ボランティア，児童・生徒の発表の場として市民ギャラリーや茶室等の活用を図った。

主には，市民ギャラリーでは6月の第46回みよし文化祭，1月の第18回墨親会書展，2月の第16回みよし文化祭美術展が開催された。また，お茶室では年間（令和2年3月を除く）を通じて美術館ボランティア（茶室運営協議会）によるお茶の稽古や酒屋保育所の園児によるお茶会として利用された。市民ギャラリーやお茶室の利用回数は32回。

（※詳細は「資料編」4頁 4. 令和元年度市民ギャラリー等使用明細表参照）

### （2）ロビーコンサート事業

月1回の満月日に地元三次市内等で活躍する個人や団体の発表の場と

して、年度内 9 回のロビーコンサートを実施し、延べ 1,846 人の集客を図った。11 月 12 日には開館以来の 200 回開催記念として記念セレモニーを実施した。

(※詳細は「資料編」 4 頁 5. 令和元年度満月ロビーコンサート実績参照)

### (3) 学校連携事業

#### ア 鑑賞事業

各企画展にあわせ、市内小・中学校の団体鑑賞の受け入れを行った。

(※詳細は「資料編」 5 頁 6. 令和元年度団体鑑賞受入実績参照)

	対象	参加校数 (校)	参加人数 (人)
1	小学生	15	825
2	中学生	1	2
	合 計	16	827

#### イ ワークショップ事業

『みんなでライブペイント』 8 月 11 日 奥田元宋・小由女美術館 「宮西達也 New ワンダーランド展」の関連イベントとして開催。作家本人と一緒に参加者が直接イラストをパネルに描きこみ、完成品は会期中、ロビーにて展示を行った。合計で 40 人が参加した。

## 4 広報・宣伝活動事業

### (1) 各企画展に伴う広報内容

	企画展名	広報内容
1	吉村芳生展	中国新聞社（紙面広告・作品解説連載など）、中国放送（ラジオ CM 等）、NHK 広島放送局番組内特集、その他テレビニュース報道内、雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介
2	ジョルジュ・ルオー展	中国新聞社（紙面広告・作品解説連載など）、中国放送（ラジオ CM 等）、NHK 広島放送局番組内特集、その他テレビニュース報道内、雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介
3	宮西達也展	6 月の三次市定例記者会見で告知。中国新聞社（紙面広告・作品解説連載など）、中国放送（ラ

		ジオ CM 等), FM はつかいち放送 (電話出演), 三次ケーブルビジョン (作家本人出演の展覧会紹介など), その他テレビニュース報道内, 雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介
4	ヒグチュウコ展	中国新聞社 (紙面広告・作品解説連載など), 中国放送 (ラジオ CM 等), 雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介, 展覧会公式 Twitter アカウントおよび作家の個人 Twitter アカウントでの告知
5	安西水丸展	中国新聞社 (紙面広告・作品解説連載など), 中国放送 (ラジオ CM 等), NHK 広島放送局番組内特集, その他テレビニュース報道内, 雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介
6	キスリング展	中国新聞社 (紙面広告・作品解説連載など), 中国放送 (ラジオ CM 等), さんいんキラリ 2019 年冬号巻頭に展覧会解説記事掲載, エフエムふくやま, 尾道エフエム放送, FM はつかいち放送 (電話出演), 三次ケーブルビジョン (展覧会紹介など), その他テレビニュース報道内, 雑誌・季刊誌・WEB サイトでの展覧会紹介

## (2) その他広報, 宣伝活動

### ア 情報発信

- ① 美術館ホームページ, Facebook, Twitter (ほぼ毎日発信) による情報提供
- ② 美術館ニュースを発行し, 1 回の発行部数は 7,000 部で, 奥田元宋・小由女作品の紹介, ボランティア活動など幅広い美術館情報をサポートメンバーや市内外の施設へ配布し広報活動を行った。
- ③ 三次市の助成 (全体額の 1/2 補助) により, 美術館を紹介する 4 か国語の多言語パンフレット (英語 1,500 部、中国語 500 部、韓国語 500 部、スペイン語 500 部) を作成し, 外国人来館者 (インバウンド) に対する周知を行った。

### イ 市民及び市外への広報・営業活動

＜講演会等の開催＞

日 時	令和元年 6 月 1 日（土） 10:00～10:50
会 場	新見美術館（岡山県新見市）
テーマ	堀文子展開催記念トーク「堀文子の魅力」
講 師	永井学芸主幹
内 容	当館から巡回した「生誕 100 年 堀文子展」の開会式に合わせて実施されたギャラリートーク。多岐にわたる作風を展開した堀文子の作品の魅力について、展示構成に沿って解説した。参加者 60 人。

日 時	令和元年 9 月 29 日（日） 13:30～15:00
会 場	笠岡市立竹喬美術館（岡山県倉敷市）
テーマ	「日展の日本画」
講 師	永井学芸主幹
内 容	奥田元宋と同じく日展を舞台に活躍した日本画家・小野竹喬の生誕 130 年を記念した特別展の関連イベントとして実施された講演会。小野竹喬を中心に、日展（その前身である文展、帝展を含む）で活躍した日本画家達の人と芸術等について解説した。参加者 40 人。

ウ 営業活動

- ① 各種団体や中四国及び九州や大阪の旅行業者を訪問し、集客にむけて PR を図った。
- ② 備北交通株式会社との連携で、満月日の満月バスパック（出発：広島バスセンター）、直行便（広島バスセンター～美術館までの 1 往復）、アートワインバスパック（乗車券と入館券のセット）も継続実施し、好評を得た。
- ③ 三次市のキャラバンにも積極的に出席し、平成 20 年度からの継続事業である、三次市観光客アップ事業の活用も行い集客を図った。（※詳細は資料編 6 頁 7. 令和元年度団体入館者及び旅行会社明細表参照）
- ④ 尾道松江線の全線開通後も継続して島根県内及び尾道、三原、福山、府中の各市の公民館・コミュニティーセンター・交流センターへの企画展ポスター・チラシを送付し、広範囲での広報活動を実施し集客を図った。
- ⑤ 令和 2 年 2 月末から 3 月末は新型コロナウイルス感染拡大防

止のため、県外及び県内への営業活動を自粛した。また、同時期の団体鑑賞のキャンセルが相次いだ（7団体 188人）。

## 5 美術館ボランティア「OGS 夢スタッフ」の活動状況

### (1) 総括

ア 登録総数 230人（延べ活動者数約2,976人）

活動者数は受付・監視2,692人、環境美化201人、広報約30人、呈茶3人、事務イベント約50人

イ 活動内容 受付・監視、環境美化、発送作業、イベント補助、広報（ボランティアニュース発行 隔月奇数月1回）、呈茶、（※作品ガイドは中止中）

ウ 先進地視察 山口県立美術館、安野光雅美術館（参加者44人）  
9月8日、9月10日の2回実施

エ 各企画展研修会の実施（企画展研修10回）

「ジョルジュ・ルオー展」 2回（参加者30人）

「宮西達也 New ワンダーランド展」 2回（参加者30人）

「ヒグチユウコ展 CIRCUS」 2回（参加者30人）

「イラストレーター 安西水丸展」 2回（参加者20人）

「キスリング展」 2回（参加者28人）

※ 上記、閉館後のボランティア向け研修以外に、夕方の時間帯の研修参加が難しいボランティア向けに、平日午後の時間帯にギャラリートークを設定した。

オ 「美術館ボランティア研修」の実施 参加者 50人

実施日 令和2年2月11日（火・祝）

研修①「日展の日本画家 ～中国地方出身の日本画家～」

講師：永井学芸主幹

研修②実技研修「水墨とアート」

講師：広島女学院大学教授・美術家 三柘正典氏

## 【収益事業】

### 1 美術関連品提供事業（ショップ事業）

#### （1）常設ショップ

元宋・小由女作品の関連商品等の販売や三次市が行うふるさと納税寄付者に対する「お礼産品」の取り扱いを行った。

令和元年度売上額 3,472,359円（内、ふるさと納税件数：5件）

#### （2）企画ショップ

（単位：円）

	企画展名	売上高	手数料収入
1	吉村芳生展	828,368	167,808
2	ジョルジュ・ルオー展	1,464,131	238,405
3	宮西達也展	6,070,395	1,090,319
4	ヒグチユウコ展	54,096,914	7,466,445
5	安西水丸展	6,122,501	1,405,577
6	キスリング展	1,264,806	202,727
	合計	69,847,115	10,571,281

### 2 レストラン賃貸借事業

レストランの食事と入館料をセットにした平日限定の「セット券」や「満月バスパック」などを入館者に提供し、年間を通じて安定したレストラン経営ができるようサポートし、賃貸借事業を実施した。

<レストラン月別利用客数>

（単位：人）

月	利用者数	企画展名
4	1,410	吉村芳生展（4/1～4/7）
5	1,881	吉村芳生展，ジョルジュ・ルオー展（4/15～6/9）
6	1,238	ジョルジュ・ルオー展
7	1,276	宮西達也展（7/5～9/6）
8	1,748	宮西達也展
9	2,162	ヒグチユウコ展（9/12～11/4）
10	2,069	ヒグチユウコ展
11	1,884	ヒグチユウコ展，安西水丸展（11/9～1/19）
12	1,123	安西水丸展
1	1,275	安西水丸展

2	954	キスリング展（2/22～3/31）
3	1,201	キスリング展
合計	18,221	（平成30年度 20,748人 2,527人減）

### 3 茶室運営事業

呈茶のサービスを通して、来館者の方々に「奥田元宋・小由女の世界」をより堪能していただくことを目的として実施している。茶室協議会で企画展・常設展に合わせて呈茶サービスの実施に係る調整会議を開催し、子ども達の茶室利用促進を目的に、絵本展期間中は小学生以下を無料にするなどの取り組みを行った。ただし、令和2年3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

今年度の呈茶実施状況は、次のとおり。

開催日数	43日
利用客数	963人（延人数）
協力流派数	5団体（裏千家、表千家、上田宗箇流、松菴流、OGS夢スタッフ）

### 【その他事業】（相互扶助事業）

#### 1 美術館サポートメンバー向け事業

奥田元宋・小由女美術館の魅力企画展や広報活動を通じて市内外に発信し、サポートメンバーの加入促進を図った。

<令和元年度サポートメンバー加入状況>

法人会員	42法人
個人特別会員	242人
個人一般会員	199人

## 【法人関係】

### 1 令和元年度評議員会及び理事会の開催

評議員会、理事会を次のとおり開催した。

	日時	会議名	議事等
1	令和元年 5 月 21 日 (火) 10:00～	令和元年度第 1 回 通常理事会	定款の変更, 平成 30 年度事業報告, 決算報告ほか
2	令和元年 6 月 6 日 (木) 10:30～	令和元年度第 1 回 定時評議員会	議長の選出, 定款の変更, 平成 30 年 度事業報告, 決算報告, 理事の選任ほ か
3	令和元年 6 月 6 日 (木) 14:30～	令和元年度第 1 回 臨時理事会	理事の選任, 理事長・副理事長の選任
4	令和元年 11 月 22 日 (金) 10:30～	令和元年度第 2 回 通常理事会	令和元年度前期事業報告, 前期収支状 況報告, 令和元年度企画展の一部変更 ほか
5	令和 2 年 3 月 5 日 (木) 10:00～	令和元年度第 3 回 通常理事会	定款の一部改正, 職員就業規則の一部 改正, 人事規程の一部改正, 令和 2 年 度事業計画案, 令和 2 年度収支予算案 ほか
6	令和 2 年 3 月 24 日 (火) 10:00～	令和元年度第 2 回 定時評議員会	定款の一部改正, 令和 2 年度事業計画 案, 令和 2 年度収支予算案ほか

## 令和元年度 三良坂平和美術館事業報告

三次市の芸術・文化・教育の振興，並びに地域文化の発展を図ることをめざし，次の事業を行った。

### 1 展示事業

#### (1) 常設展の開催

常設展は，所蔵作品である柿手春三作品を展示した。

	展示名	会期（開館日数）	入館者数 （常設展のみ）
1	第Ⅰ期 同時代を生きた二人 柿手と柿本	常設展のみの期間 （企画展と同時開催のためなし） ※展示期間 4月6日～6月2日（52日間）	※全期間入館者数 5,858人
	【概要】 柿手の手がけたイラストを展示		
2	第Ⅱ期 県北を描く	常設展のみの期間 6月4日～6月5日（2日間） ※展示期間 6月6日～7月7日（28日間）	0人 ※全期間入館者数 824人
	【概要】 県北の風景画を展示		
3	第Ⅲ期 柿手と広島 の女流作家	常設展のみの期間 （企画展と同時開催のためなし） ※展示期間 8月3日～8月25日（21日間）	※全期間入館者数 364人
	【概要】 「平和」をテーマにした作品群の展示		
4	第Ⅳ期 色, 彩, いろ	常設展のみの期間 10月8日～10月11日（4日間） ※10月29日～11月3日（6日間） 貸館期間中で常設のみの鑑賞者数 ※展示期間 9月1日～11月24日（77日間）	2人 349人 ※全期間入館者数 2,647人
	【概要】 豊かな色使い，絵の具の美しさを再発見		
5	第Ⅴ期 白と黒の世界	常設展のみの期間 令和2年1月28日～29日（2日間） ※展示期間	0人 ※全期間入館者数

	12月1日～令和2年3月22日 (95日間)	1,752人
【概要】 スケッチや挿画に見る白と黒		
入館者数合計（常設展示のみ） 281日（8日）		11,445人 (351人)

## (2) 企画展の開催

	企画展名	会期（開館日数）	入館者数
1	柿本幸造 絵本の世界	4月6日～6月2日（52日間）	5,858人
	<p>【概要】</p> <p>柿本幸造の代表作である「どうぞのいす」（ひさかたチャイルド）や「どんくまさん」（至光社）など、あたたかく、こもれびのように優しいお話の世界を紹介。</p> <p>【関連イベント】</p> <p>ワークショップ：5月26日（私だけのどうぞのいすを作ろう！）、絵本の読み語り（毎週土・日・祝）。</p>		
2	県北アートシーン 29th	6月8日～7月7日（26日間）	824人
	<p>【概要】</p> <p>絵画，立体，写真，陶芸等，県北在住ならびに県北に所縁のある，現在活躍中の作家の優れた作品を広く地域の人々に紹介。</p>		
3	明日への輝き 33回平和展	7月13日～7月28日（15日間）	373人
	・平和の灯ろうコンテスト 作品展示	8月3日～8月25日（21日間）	364人
	・柿手と4人のなかま		
<p>【概要】</p> <p>・広く平和祈念の機運を高めることを目的に「第7回平和の灯ろうコンテスト」の応募作品をすべて展示。</p> <p>・女性四名の作品と柿手作品のコラボレーション。そして、彼女たちの作品群という2部構成とし、それぞれの作品同士の共鳴を楽しんでもらう。</p> <p>【関連イベント】</p> <p>ワークショップ：7月30日（石ころアート 三良坂小学校5年生）。</p>			
4	南後美幸展	9月1日～10月6日（33日間）	587人
	<p>【概要】</p> <p>南後氏の油彩画。明るくユーモラスな動物たちの作品は、小さな子どもから</p>		

	大人まで楽しませてくれる。絵画をより身近に感じ、親しんでもらう。 【関連イベント】 ギャラリートーク：9月1日		
5	紙の昆虫たち 斉藤卓治・健輔親子展	10月12日～11月24日 (40日間)	1,651人
	<b>【概要】</b> 斉藤卓治・健輔親子が作り出す小さな小さな紙の昆虫たち。「切り紙」というジャンルの芸術を知ってもらう。 <b>【関連イベント】</b> ワークショップ：10月12日（紙の昆虫を作ろう）、10月20日、11月10日（お茶席）。		
6	齋藤清 版画展 ・前期 ・後期	12月1日～令和2年1月26日 (47日間) 令和2年1月30日～3月22日 (46日間)	644人  1,108人
	<b>【概要】</b> 三次市内のコレクターが所有する作品約200点を前、後期に分けて展示し、その魅力にせまる。版画の奥深さを楽しんでもらう。 <b>【関連イベント】</b> ギャラリートーク		
		合計入館者数（280日間）	11,409人

※令和元年度入館者数 11,760人 （企画展11,409人、常設展のみ351人）

## 2 市民活動支援及び教育普及事業

### (1) 市民ギャラリー活用事業

町内中学生文化祭作品展・町内文化祭作品展や市民の作品展示場として提供した。

	事業名	会期	入館者数
1	みらさか文化祭	10月29日～11月3日	349人
合 計（6日間）			349人

### (2) 地域連携事業

#### ア 鑑賞事業

	事業名	期間	利用団体名	入館者数
1	柿本幸造絵本の世界	4月24日・5月7日～9日 4月10日	みらさか小学校 三良坂中学校	115人 18人

		5月4日	三良坂デイサービス	11人
2	平和の灯ろう コンテスト作品展	7月13日～7月28日	みいちゃん家・みら屋 三良坂デイサービス・ 相扶園・たすく・コー ジーガーデン	184人
3	三良坂中学校 職場体験	7月30日～8月3日	三良坂中学校2年生	2人
4	斉藤卓治・ 健輔親子展	10月25日 11月20日 10月25日 10月25日～11月1日,4日 11月6日・15日 11月22日	三良坂保育所年長 みらさか小学校1年 三良坂中学校支援学級 デイサービスウイズ 三良坂デイサービス あらくさ	15人 16人 2人 50人 26人 5人
合 計				444人

### イ ワークショップ事業

	事業名	会期	講師	参加者数
1	わたしだけのどうぞ のいすを作ろう！	5月26日	奥本 巖	16人
2	平和の灯ろう (連続模様で遊ぼう)	6月22日	千馬弘子	18人
3	ペーパークラフトの かご	7月13日	美術館職員	19人
4	石ころアート	7月30日	熊谷睦子 原田幹子	三良坂小学校 5年生 27人
5	紙の昆虫作り	10月12日	斉藤卓治・健輔	12人
6	一版多色刷りに挑 戦！	12月1日	三桝正典	5人
合 計				97人

### ウ 絵本の読み語り会（特別展「柿本幸造絵本の世界」会期中）

- ・三良坂中学校生徒・三次市おはなしボランティアネットワーク
- ・安芸高田市吉田町の読み語りボランティア・庄原市読み聞かせのボランティア(市外)

### エ 参加型平和への取り組み事業(市地域振興課ひとづくり係と共催) 第7回 平和の灯ろうコンテスト

広島市平和記念公園へ手向けられた「折り鶴」を「ちぎり絵」などに活用することで、広く平和祈念の機運を高めることを目的に「平和の灯ろうコンテスト」を開催(三次市地域振興課ひとづくり係と協力して)、展示した。

- ◎鶴の解体は三次市内の介護施設にお願いした。
- ◎応募について

- ・個人でも団体でも応募できる。
- ・お渡しする灯ろう用紙と折り鶴を使用すること。
- ・作品は平和に関連性を感じさせるものとする。

◎賞の結果について

	幼児の部	小学生の部	中学生の部	一般の部
大賞	神杉保育所	酒河小学校	三良坂中学校 1年藤川龍信	三次市三和支所
優秀賞	酒屋保育所	みらさか小学校 1年 谷本一真	川地中学校 文芸部	通所介護事業所 コーギーガーデン
特別賞	河内保育所	八次小学校6年生	甲奴中学校	大村まい

応募数 (個人・団体合わせて)

幼児の部 80点      小学生の部 117点      中学生の部 164点  
 一般の部 127点                      合計 488点

## 令和元年度 美術館あーとあい・きさ及び吉舎歴史民俗資料館事業報告

三次市の芸術・文化・教育の振興，並びに地域文化の発展を図ることをめざし，次の事業を行った。

### I 美術館あーとあい・きさ事業

#### 1 展示事業

##### (1) 常設展の開催

三次市吉舎町出身の奥田元宋，奥田小由女の作品を通年展示した。

	展示名	会期（開館日数）	入館者数 （常設展のみ）
1	常設展	4月1日～3月31日 (316日間)	864人 (66)
	<b>【概要】</b> 当館所蔵の奥田元宋・小由女作品を，両氏の出身地にある美術館として活用し，通年展示した。		
入館者数合計（常設展示のみ） 9日間			864（66）人

##### (2) 企画展の開催

	企画展名	会期（開館日数）	入館者数
1	郷土作家シリーズ⑩ ーそれぞれの感動ー 春のとりどり展	4月6日～4月29日 (21日間)	422人
	<b>【概要】</b> 県北を中心に創作活動を続ける作家4人（松永弘子/日本画，西村香代子/日本画，三嶋喜美子/泥人形，巳之口豊/陶芸）の作品を一堂に展示し，市民の文化意識の向上に資するとともに芸術鑑賞の機会を提供することを目的に開催した。		
2	広島県医科芸術展	5月5日～5月26日 (20日間)	332人
	<b>【概要】</b> 広島県内の医療関係者が繁忙な日常生活の中で制作した絵画・写真・書・彫刻・工芸などの力作65点を展示し公開した。		
3	第13回広島県日本画協会展 ー世界遺産・日本遺産ー	6月2日～7月7日	562人

		(31日間)	
	<p><b>【概要】</b></p> <p>広島県日本画協会に所属する会員が「日本遺産・世界遺産の風景作品」をテーマとして制作した50余点を展示し、広く紹介した。</p>		
4	三桝正典 ジャパニーズ・モダン展	7月28日～9月8日 (38日間)	850人
	<p><b>【概要】</b></p> <p>様々な表現技法に挑戦し活動を展開している三桝氏の作品から、襖絵や屏風に描かれた作品を中心に展示し、素材としてのアクリル絵具と日本画的表現の見事な融合を広く紹介した。</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>ワークショップ「金紙と墨で自分だけのモダンアートを描いてみよう」 日 時：8月17日（土）13時30分～ 参加者：16人</p>		
5	積山ミサ作品展 ～初秋群生・ヒガンバナの里から～	9月15日～10月6日 (21日間)	478人
	<p><b>【概要】</b></p> <p>版画作家積山ミサの作品の中から大型木版画を中心に展示し、併せて版画制作に至るまでの油絵等も併せて広く紹介した。</p> <p>また、吉舎町の秋を象徴する「ヒガンバナ群生地」に合わせ、ヒガンバナを描いた作品を多く展示した。</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>展示作品とのコラボレーションとして次のイベントを実施した。</p> <p>1. 弦楽四重奏演奏会 9月22日（日） 15時～ 2. ギャラリートーク 9月29日（日） 14時～ 「ギリシャ日本現代版画展」からの報告</p>		
6	開館25周年記念特別展 南薫三と奥田元宋ゆかりの日展作家たち	10月13日～11月10日 (27日間)	854人
	<p><b>【概要】</b></p> <p>開館25周年を記念して奥田元宋が少年時代に憧れた洋画家南薫造を中心に、元宋とともに日展で活躍したゆかりの作家たちの作品を交えた展覧会とした。</p> <p><b>【関連イベント】</b></p> <p>オープニングセレモニーの中で次のイベントを実施した。</p> <p>1. ロビーコンサート 篠笛奏者 和奏楽人 鼓谷義之 2. 新ロゴマーク表彰式</p>		

3. 八幡小学校児童による奥田元宋作品解説			
7	芸州焼瑛泉窯二代陶芸展 西本瑛泉・西本直文	11月17日～12月15日 (25日間)	316人
	<b>【概要】</b> 萩焼風の作品や縄文土器をテーマにした西本瑛泉と改組新第6回日展で2度目の特選を受賞した西本直文の二代にわたる格調高い作品40点を展示した。		
8	コレクション展 I	12月21日～ 令和2年1月5日 (9日間)	26人
	<b>【概要】</b> 当館所蔵の馬屋原操氏の県北の風景を描いた作品を展示し紹介した。		
9	吉舎町内園児・児童・生徒作品展	令和2年1月12日～ 2月29日 (44日間)	392人
	<b>【概要】</b> 吉舎町内の園児及び小中高校生が授業で制作した作品を①園児・小学生②中学生③高校生のカテゴリー別に期間を設けて展示し、地域の子どもたちの芸術への関心の向上を図った。		
10	正山征洋コレクション ボタニカルアートと故郷の薬草展	3月7日～3月31日 (21日間) ※全会期 3月7日～4月5日 (26日間)	445人  ※全期間入館者数 509人
	<b>【概要】</b> 三次市吉舎町出身の薬学博士正山征洋氏が自らの研究の傍ら収集したボタニカルアート78点を展示し広く紹介した。  <b>【関連イベント】</b> 3月21日に正山氏による講座「故郷の薬草のおはなし」を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。		
合計入館者数 257日間			4,677人

※令和元年度入館者数 4,743人（企画展 4,677人、常設展のみ 66人）

## 2 教育普及事業

### (1) 地域連携事業

## ア 鑑賞事業

著名な作家などによる美術作品を通して、児童生徒や地域住民などに芸術並びに文化への理解と関心を深めてもらう機会を提供した。

### <団体鑑賞受入実績>

	事業名	期日	入館者数
1	美術作品鑑賞と施設見学 (社会福祉法人あらくさ)	4月12日	7人
2	美術作品鑑賞と施設見学 (社会福祉法人こじか荘)	5月16日	20人
3	美術作品鑑賞と施設見学 (日彰館高等学校1年生・3年生)	6月4日	31人
4	美術作品鑑賞と施設見学 (日彰館高等学校2年生)	6月5日	8人
5	美術作品鑑賞と施設見学 (社会福祉法人優輝福祉会)	6月6日	7人
6	美術作品鑑賞と施設見学 (福祉ボランティアひかり)	6月26日	20人
7	美術作品鑑賞と生徒会新聞取材 (日彰館高等学校生徒)	10月8日	8人
8	美術作品鑑賞と施設見学 (七日市いきいきサロン)	10月17日	13人
9	美術作品鑑賞と施設見学 (吉舎小学校2年PTC)	10月18日	35人
10	展示作品鑑賞 (吉舎保育所園児)	1月22日	48人
11	美術作品鑑賞と施設見学 (社会福祉法人あらくさ)	3月13日	5人
合計			202人

## Ⅱ 吉舎歴史民俗資料館

### 1 展示事業

#### (1) 常設展の開催

三次市吉舎町の豊かな歴史文化と伝統を背景とした貴重な遺物や資

料等を通年展示した。

県史跡三玉大塚古墳出土品，南天山城跡出土品，和智氏関係資料，昔の農家（囲炉裏等による再現），民具・農機具等を展示した。

## （２）企画展の開催

先人の暮らしと知恵が生み出した民俗資料等を詳細な説明を加え展示した。

	企画展名	会期（開館日数）	入館者数
1	塩飽新一のガラス展	4月6日～6月30日 (76日間)	269人
	<b>【概要】</b> 庄原市在住の塩飽氏の工房から生まれた廃ガラスを利用した器や置物・ランプなどの作品を展示し，昔ながらの手作りのガラス作品の魅力を紹介した。		
2	福もん縁起もん展	7月7日～9月1日 (51日間)	105人
	<b>【概要】</b> 吉舎町在住の月橋夫妻が長年にわたり収集した郷土玩具や張り子人形などの中から福もの縁起もの人形など約100点を展示し，各地の伝統工芸品の歴史や先人の思いに触れる展示を行った。		
3	甲奴町・あらくさの作品展	9月10日～9月29日 (20日間)	80人
	<b>【概要】</b> 社会福祉法人あらくさの通所者15人が制作した絵画や貼り絵などを展示し，障害者が日常的に取り組む創作活動を広く紹介した。		
4	日影館創立125周年記念企画展 再興 影絵人形劇展	10月13日～12月22日 (63日間)	105人
	<b>【概要】</b> 日影館高校の影絵人形劇の生みの親である故佐々木久人氏が制作された人形やセットの一部を紹介するとともに，当時の活動を記録した映像を供覧するなど活動の歴史を紹介し，地域の愛好者による人形劇再興の支援を行った。		
5	三原照義のかずら工芸展	令和2年1月5日～ 3月29日 (75日間)	209人
	<b>【概要】</b>		

	吉舎町在住の三原氏が近隣の山から採取したかずらを利用し制作したオブジェや花かご等 20 点余りを展示し、自然とともに生きるライフスタイルを紹介した。
	合計入館者数 285 日間 768 人

## 2 教育普及事業

### (1) 地域連携事業

#### ア 鑑賞事業

先人の知恵と工夫が生み出した歴史遺産、民俗資料等の鑑賞を通して児童生徒や地域住民などに芸術並びに歴史文化への理解と関心を深めてもらう機会を提供した。

	事業名	会期	入館者数
1	資料館見学－三玉大塚古墳の事前学習－ (吉舎小学校 6 年生)	4 月 17 日	17 人
2	資料館見学及び三玉大塚古墳現地研修 (三原郷土史木曜会)	9 月 12 日	13 人
3	資料館見学－三玉大塚古墳の学習－及び町内の 街並み探訪 (吉舎小学校 6 年生)	9 月 17 日	18 人
4	資料館企画展示見学 (社会福祉法人あらくさ)	9 月 18 日	16 人
5	資料館企画展示見学 (社会福祉法人優輝福祉会)	9 月 28 日	26 人
6	資料館－昔の道具－見学 (八幡小学校 3 年生・4 年生)	11 月 13 日	4 人
7	資料館－昔の道具－見学 (青河小学校 3 年生)	1 月 29 日	4 人
		合計	98 人

#### イ ワークショップ事業

	事業名	会期	講師	参加者数
1	張り子人形の絵付け体験	7 月 31 日	月橋夫妻	4 人
		8 月 11 日		8 人
		合計		12 人

※ 令和元年度入館者数

・美術館あーとあい・きさ入館者数 4,743 人

・吉舎歴史民俗資料館入館者数 866 人

合計入館者数 5,609 人（開館日数 316 日）